●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プラルト

公民館報 まつもと

発行
2019
11/30

シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 46

秋の終焉をつげるイチョウの落葉
黄色いじゅうたんの上で…

青空と黄色の落葉がコラボ

11月上旬になると、総合体育館周辺のイチョウが黄葉。強い霜が降りた朝には、一斉にハラハラと落葉が始まります。

イチョウ科の植物は中生代から新生代にかけて繁栄。氷河期にほぼ全滅し、イチョウは唯一現存する種です。

早朝には、大勢の市民のみなさんのぎんなんを拾う姿が、晩秋の風物詩になっています。

今年は枝が伐採されて落葉も少なく、5年前のこの写真のような黄色いじゅうたんにはなりませんでした。

（撮影 2014.11.10 松本市総合体育館）

食品ロス削減30・10運動

今年5月（食品ロス削減の推進に関する法律（通称：食品ロス削減推進法）が成立・交付され、10月1日に施行されました。

食品ロス削減シンポジウム

食品ロス削減に関する法律の中で、10月30日が「食品ロス削減の日」と定められました。これは松本市が推進する「残さず食べよう！30・10運動」にちなんだものです。

これを受けて松本市は、食品ロス問題に対する関心をより一層深めてもらおうと、10月19日Mウイング6階ホールで「食品ロス削減シンポジウム」を開きました。シンポジウムでは約160人の参加者が、今までの松本市の取り組みや元環境省事務次官の森本英香さんによる同法成立の裏話、NPO法人フードバンク信州理事の伊藤由紀子さんの子どもを取り巻く食の現状の話、タレントの高木美保さんの基調講演に耳を傾けました。高木さんは、ご自身の「農業をして自給自足に近い生活をする意義」を紹介。農業体験に参加した子どもたちは、自分たちが収穫した野菜を食べることで好き嫌いをしなくなったり、稲刈り後の落ち穂を「もったいない」と拾って大事にするようになったりした逸話を披露し、実際に作物を育てることで食べ物を大切にする心が育つと話されました。

基調講演の様子

30・10運動推進店の取組み

松本城の近くに店舗を構える飲食店では、20年以上前からもったいない、無駄にしないをモットーにごみ削減に努めていたこともあり、30・10運動も松本市が取り組み始めた時から実践しているそうです。宴会の時は大勢が座れるテーブルに30・10運動のコースターを置いたり、帰り際にパックを提供して食べ残しを減らす努力をしています。

「宴会が始まると食事をとらずに接待に励む方が多かったのが、コースターや幹事さんの声掛け次第で、落ち着いて食事をとる方が増えるようになったことはとても良いことだと思っている。食べ残しが減ると板前のやる気にもつながる。もったいないは日本の美徳、食品だけでなく、物を大切にすることを伝えていきたいと考えている」と中央地区の衛生部長で飲食店店主の高木健さんは話してくれました。

ケータリング業界でも主催者から30・10運動のコースターの配布を依頼されることもあり、30・10運動の声掛けがある宴席では食べ残しが少ないそうです。

大型小売店では30・10運動のポスターを掲示して啓発を促したり、値引きをして販売したりして、廃棄処分する物を減らしているとのことでした。

市民の意識

市民の声を聞くと、松本市が発祥の地と言われているだけに30・10運動は広く知られていましたが、食品ロス削減推進法はほとんど認知されていませんでした。しかし「野菜の皮や茎を捨てずに調理する」とか「冷蔵庫の中を整理し、買い物に行くときには献立をメモして余分なものを買わない」「たくさん作らないようにし、残ったものはひと手間加えて違うものにする」「魚はじっくり低温で揚げたり、圧力鍋で煮て丸ごと食べる」など、できることを実践している家庭が多く、食品ロス削減に関する意識は高いことが感じられました。

シンポジウム当日は、松本大学の学生グループ「いただきます!!」の皆さんが、工夫して食材を使い切る「もったいないクッキング」を披露しました。

わがまち自慢

古い電車で新しい語らいの会

平成18年に発足したこの会は各種行事に参加し、子ども用の鉄道玩具を使い、来場者に楽しんでいただいています。各種行事を通じて、公共交通を考える活動をしています。

今年は台風の影響で中止となった市民活動フェスタや松本大学祭にも毎年参加し、依頼を受けて、各種イベントに参加しています。行事では子ども向け鉄道玩具で楽しんでもらいながら、公共交通の在り方を考えていただいています。

会の最大のイベントは、毎年3月に上高地線新村駅で実施する「ふるさと鉄道祭り」です。行事を共催し、子ども玩具での遊び場の提供や、抹茶の振る舞い・餅つき体験や黄粉・ゴマ餅の提供、ミニSL乗車などを担当しています。

レールも分け合って、上手く出来たかな？

松本の野鳥の今昔

温暖化が進み、私たちの周りの野鳥の世界も変化しています。

増えた野鳥

多くの野鳥が減っている中で、環境の変化を巧みに生かし、増加している野鳥もいます。特にハシブトガラスは高山に進出し、雷鳥の卵を持ち去るなど、大きな脅威となっています。

オオタカなど、本来は里山～高山に生息する猛禽（もうきん）の数種は、ムクドリやドバトを狙って市街地へ進出しています。

河川浄化のバロメーターと言われるカワセミも増えつつあります。以前は郊外の河川で見かける程度でしたが、今は松本城の堀や穴田川などでも見かけるようになりました。

塒に集まるハシボソガラス

松本市の下水道対策の成果が伺えます。

市街地の困った鳥たち

ここ数年、特に話題となっているのがカラス、ムクドリ、カワウ。市内にはハシブトガラスとハシボソガラスの2種のカラスがいます。集団で塒（ねぐら）をとる習性があり、あがたの森を塒としているのはハシボソガラスです。公園内の路上や駐車中の車に落とされた糞の汚れや臭いに閉口させられています。ムクドリも同じ習性があり、松本駅周辺の街路樹では糞害や騒音の苦情が絶えず、駅前広場では樹木を伐採したことも記憶に新しいところです。結局は移動しただけで解決には至っていません。

カワウは漁業関係者にとって困った鳥の筆頭です。以前はいなかった鳥ですが、ここ数年は集団で見かけるようになりました。あがたの森の池の魚も犠牲になっています。

外来種（特定外来生物）

数年前から松本でも外来種のガビチョウが定着し、浅間温泉の山際や岡田の塩倉で繁殖が確認され、駆除に向けた早期の対応が必要です。

避けられない環境変化

今年、日本列島を襲った大型台風の大きな要因として、地球温暖化が指摘されています。松本でも目に見えた自然環境の変化を感じます。

人間は自然に逆らえないものですが、カワセミの例のように人の力で改善できることもある、ということを頭に入れておきたいものです。

ガビチョウ。声は綺麗なのだが…

写真でつづる まつもとの今昔㊻

～上二子橋崩落～

（1985.11　写真提供：日本報道写真連盟）

奈良井川の大水により川底が削り取られて、橋桁が落下して木製の橋が崩落。上二子橋は時々流されており、その都度修復した。奈良井ダムは1982年に竣工している。

（2019.11.1　撮影）

現行の橋は鉄筋コンクリート製で1986年11月に竣工した。

おこひる

ビブリオバトルをご存じだろうか。自分の好きな本を紹介し合うもので、観衆の「一番読みたくなった本」がチャンプ本（優勝）となる。先日松本市の中学校で、このゲームが国語の授業として行われた。市内の中学校では、知る限り初めての試みだ▼仕事の関係で幸いにも、その現場を見学する機会を得た。講師はビブリオに精通した、高校のベテラン司書さんだ。「原稿を読んではならない。あくまでも目の前の人と向き合い、自分の想いを伝える事が重要」と、生徒たちに教えていた▼彼らは照れながらも、この時間を結構楽しんでいた様だ。言葉だけでは無い。身ぶり・まなざしなど、気持ちを伝える方法を、それぞれの生徒が試行錯誤していた▼ビブリオは本の紹介を通して、内容の理解を深める事ができる。そして何よりコミュニケーション能力を養う事も期待される。自分の想いを直接届けるゲームだ▼普及に向けて、情熱を傾ける先生もいる。ネット依存の増す今だからこそ、この取り組みにエールを送りたい。

歴史探訪 探ろう松本 14

幾筋かの川に囲まれて　庄内地区

庄内地区は弘法山の西側に広がり史跡や文化財が多く残ります。現在は区画整理で新市街地が生まれています。

地区の概要

東は千鹿頭池、西は田川、南は牛伏川、北は薄川に囲まれ、牛伏寺断層が走っている地区です。町会は15町会あり、人口は1万4773人、高齢化率25・15％（令和元年10月1日現在）です。

国・県と市の指定文化財は合わせて9つ、小中学校も合わせて4つあります。農工商業が盛んな地区です。

公民館活動

平成18年に複合施設ゆめひろば庄内の1階に庄内地区公民館が開設され、翌年には市政百周年事業として、「ドリーム庄内・秋の集い」という地区住民の楽しく絆を深める祭りが始まりました。近年では防災を主とした運動会を行い、毎年老若男女約600人が参加しています。公民館活動としては、明日を語る会（公民館運営委員会）を中心に子育て・視聴覚・文化と館報編集委員会が精力的に個性ある活動をしています。また子ども会育成会は毎年夏に小学生が核になり、保護者・地区住民と青年会が援護して、子どもまつりを約500人規模で行っています。

公民館活動には、町会の祭り実行部隊である各青年会の皆さんの協力が不可欠になっています。

恒例となった防災運動会

防災意識

庄内地区は、長野県中部地震による死傷者がでる惨事が起こったり、水害で床下浸水が起こったりした土地柄です。地区での「防災と福祉のまちづくり事業」に先立って庄内盛盛（もりもり）会が、15m四方のガリバーマップを使い避難訓練を実施しました。地区町会連合会や町内公民館長会が二つの小学校で避難所訓練を行い、開成中学校生徒が避難所運営宿泊訓練や、筑摩・並柳小学校児童がゆめひろば庄内で避難所生活体験を実施しています。

ガリバーの気分　巨大マップ

地区の悩み

地区公民館の事業は、参加者を増やすべく、企画を考え実行しています。例えば今年から「ドリーム庄内」への参加者募集は、子どもの競技を増やすことで、3世代の家族に参加しやすくしました。

「ゆめひろば庄内は、避難所になっていますが、電源施設が地下にあり水害に弱いこと。また、公民館活動の役員候補の発掘がなかなかできないことが悩みです」との地区公民館長のお話でした。

ちょこっと 松本さんぽ

～ムギマキ～

夏鳥のキビタキ似の美しい野鳥。オスは上面が黒く、喉から腹はオレンジ色で、下腹以下の下面は白色。日本では旅鳥として春・秋の渡りの時期に全国各地を通過。市街地の公園にも姿を見せるが、数日とどまる程度でいなくなる。数は少ないため、見つけることが難しい。

（撮影:2019.10.23　アルプス公園）

地産地消のかんたんレシピ

何もしないで簡単『焼き芋』

ただオーブンで焼くだけ!!

材料：サツマイモ

1. 買ってきたサツマイモの端を切って、中身が黄色いものを使う
2. 手を加えずに洗って水切りする
3. オーブンで30～40分焼く。秋は220℃、冬は180℃が目安